

多宝会新聞

発行所
社会福祉法人
多宝会
本部事務局広報室
福島市本町4-23
024-522-6611
mail
honbu@tanokai.jp

「多宝会新聞」創刊10周年100号記念特大号

法人の動きが伝わる広報誌を目指して

本号をもって本紙は「創刊10周年」そして記念すべき「第100号」という2つの佳節を同時に迎えさせて頂くこととなった。これも偏に、日頃より編集に携わるスタッフの皆様とご購読いただいた全ての皆様のおかげであり、本部広報室一同心より御礼と感謝を申し上げます。

法人のオフィシャルな広報誌として、平成21年4月28日に多宝会新聞は創刊。法人創立以来それまでも広報誌は作成されて来たが、その編集・発行は、施設ごとに広報委員会を設置し、現場職員の手作りによって作成されていた。

しかし、現場を抱える職員にとってその労力は相当な負担となっており、今後の広報誌のあり方について様々な角度で協議を重ねた結果、新たに広報誌を一元管理する「本部広報室」を設置することとし「取材は現場」で「編集・発行は本部」という作業の棲み分けと合理化、現場の負担軽減を図る新たなスキームを構築するに至った。

記念すべき第一号の編集日記には「法人の動きをお伝えできる新聞を作りたい」と考えていた。念願が叶い、挑戦したい。」と、当時の広報室長であった加藤勝一前理事長の意気込みが記されている。

ここで示された「挑戦」とは、本部が広報作業の大

半を担っていくことへの決意はもとより、リアルタイムな法人の動きを伝えるためには「毎月発行」が必須であるという前代未聞の取り組みへの覚悟でもあった。以来、毎月発行は有言実行された。苦勞も多かったが、創刊時の思いであった「法人の動きをお伝えできる新聞」は見事に具現化されていた。

平成23年3月11日の「東日本大震災」では、法人全体が大きな被害を被ったがそんな中であつて第0024号(平成23年4月1日)は発行され、当時の奮闘の様子を細やかに伝えた。第0039号(平成24年7月2日)では法人創立15周年記念事業としてユニットケアの権威である井上由紀子氏を迎え会場を埋め尽くす盛況ぶりを伝えた。第0092号(平成29年11月1日)では、法人創立20周年を伝えるとともに特集号が組まれ、20年の歴史と発展の様子が大きく取り上げられた。この号より、時代に即して多宝会新聞の編集・発行体制を刷新。本部広報室キヤラクターである「宝子(たからこ)」が引退。同時に「毎月発行」が体制も見直し四半期ごとの季節発行体制に移行。第0093号(平成29年12月1日)より新キヤラクターの「心美(こころみ)」に引き継がれた。

これまでも、紆余曲折を経ながらも10星霜にして100号のリアルな動きをお伝えし続けて来ることができた。まさに「継続は力」である。多宝会新聞はこれからも「動きが伝わるディスプレイ」を目指すとともに、「心」の通った「信用に値する」「新鮮な情報をお届けするツール」として、さらなる発展を続けてまいりたい。

多宝会新聞
平成二十一年度
事業計画・予算を決定

西部地域包括支援センター
大きな使命に期待を胸に、地域を守る介護支援の拠点として再出発

この人
多宝会新聞の編集・発行

地域と共に歩む

この度の創刊10周年100号を記念して、日頃より法人施設が大変にお世話になっている各地域の有識者に「今、そして未来の多宝会に期待すること」と題してインタビューにご協力いただきましたのでご紹介いたします。

土湯温泉町町内会連合会
会長 松本 幹夫様



土湯温泉町は人口減少が著しく、高齢化率も50%を超える地域です。その中であつて多宝会さんの運営する土湯宝生園と宝寿木村屋には様々な面で活躍してらつてます。高齢化率が高いつつ、毎年の「敬老会」が盛り上がり、西部地域包括支援センターをはじめ、多宝会さんには費用面や健康体操などの企画でも全面的に応援していただけてます。

上名倉東部千寿会
会長 佐々木政治様



この上名倉地区にアリヴァー宝生園さんが整備される以前は、自分自身の親が近くでデイサービスを利用していたが、周辺は田畑だらけ、さらに区画整理の最中で車が入って来れず、自乗車の後ろに座布団を敷いて親を座らせ、大変な思いをして送迎車まで移動したものです。今となっては家の前まで送迎車両が入って来られる様になり助かっています。

本町親交会
会長 小泉 健一様



平成18年の開所以来、当時は本町のメイン事業であつた「ほおずき市」や例年開催する「稲荷神社の例大祭」、また毎月の「町内早朝清掃」など、まちなか宝生園のスタッフの皆様のご協力のおかげで、地域行事は活気に満ちており、さらには活気も頂いております。本町は中心市街地の下真ん中に立地しているため、定住人口もさることながら、高齢者人口が非常に少ない地域です。しかしながら、サラーマンや買い物客など、交流人口は多いため、今後も引き続き、本町を訪れる高齢者や困っている方が居れば、社会福祉施設としての機能性を十分に発揮していただき、中心市街地では希薄になりがちな「心」ある支援に尽力いたし、相談のつたり、手を差し伸べてもらえればありがたい。

上名倉 森町会
会長 小林 茂様

日本における高齢化は、

これからも温泉観光地ならではの楽しい高齢者施設運営を宜しくお願いします。

活が進み「地域になくはない施設」になりましたね。私も今年で80歳になりました。入居する時には宜しくお願いしますよ(笑)

積極的に「外国人技能実習生」を採用

社会福祉法人のグローバル化を推進!



2017年11月1日に外国人の技能実習の適切な実施及び技能実習生の保護に関する法律「技能実習法」が施行された。この「技能実習法」に新たに「介護」が加わった。この制度は、海外からの実習生が自国では身につけることができない技能などを日本で学び、その技能を自国に持ち帰り、自分の国で役にたてる制度である。しかしこの制度により、日本への受け入れが容易になった訳ではない。

まずは受け入れる側の体制を整えなければならぬ。講習を修了した「技能実習責任者」や技能実習生



への指導を担当する「技能実習指導員」の配置などのソフト面、技能実習生の宿泊施設の確保、技能の取得等に必要の機械、器具などの設備の備えなどのハード面等、様々な要件をクリアしなければならぬ。また、技能実習生となるためにも、外国の看護学校卒業または看護資格を有する者もしくは外国の高齢者施設での従事した経歴を有し、さらに日本語能力レベルがN4(日常的な場面でのやり取りと話される会話程度)以上でなければならぬ。その条件をクリアして初めて入国が可能となる。



さらに、日本において「介護職員初任者研修」程度の研修を約2ヶ月受講し、ようやく現場での実習が開始となる。

多宝会では、現在、ASEAN諸国の中で急速に高齢化社会を迎えようとする「ベトナム」からの外国人技能実習生の受け入れを決定した。

平成31年4月1日から5日間の日程で、加藤理事長と上湯宝生園の齋藤施設長が、ベトナムの都市ダナンに赴き、日本での実習を希望するベトナム人学生7名を面接。内2名を採用内定した。現在、訓練や手続き



も順調に進み、令和2年2月には多宝会での実習が始まり、その後は最長5年間の実習生活を送る予定となっている。また、現地の日本語学校で介護を学ぶベトナム人学生の皆様に、質疑応答による臨時講習の依頼があり加藤理事長が対応した。学生の皆様の熱意ある一生懸命な研鑽姿勢に感銘を受けた。

「職員総会」を盛大に開催!

令和元年度

元号が変わり、令和元年度の職員総会が7月12日、19時15分から「来賓と職員」の代表の約100名が集まり、盛大に開催された。今回の職員総会は、令和初の開催であると同時に、開業46年の歴史に幕を降ろすこととなった「ホテル辰巳屋」を会場とした最後の職員総会でもあった。

第一部の総会では加藤理事長より挨拶があり「今後さらには先進的な取り組みと職員ファーストを加速させていく」ことを示され、介護負担軽減の「マックススーツ」導入や、人材確保

「タイの視察団が法人施設に来訪

さらに、今年4月23日には「タイ厚生労働局総合病院」と「バンコク首都圏病科大学」の医師や看護師の視察団が多宝会の施設を訪れ、日本式介護の研修を行いました。



第二部「交流懇親会」では、伊藤達也評議員の乾杯により幕が明け、総会の厳

「「永年勤続表彰」では、ほのぼの宝生園の介護職員である板倉秀樹さんと、アリヴァール宝生園の介護職員である加藤弘之さんの2名が表彰された。

その後「来賓の紹介」に続き、内山加奈子事務局長より「平成30年度 事業報告」があった。損益実績や稼働実績など、数値データをもとにスライドと並行しながら報告され、昨年の実績に対して経営状態は向上しており、さらに職員の処遇なども大きく進捗しているとの説明があった。

「外国人技能実習生」受け入れ等の発表がなされた。



この体制は、単に苦情を解決するだけではなく、法人または施設のサービス向上のため、一定期間毎に第三者委員会を含めた報告会を開催。情報の共有と協議として必要な助言を受ける

「「永年勤続表彰」では、ほのぼの宝生園の介護職員である板倉秀樹さんと、アリヴァール宝生園の介護職員である加藤弘之さんの2名が表彰された。

「その声を何よりも大切にします。」

我々社会福祉法人は、常にその提供するサービスについて、ご利用者やご家族の声なき声に耳を傾け、適切な解決に努めなければならぬ。そのための体制として、苦情の受付や内容の確認と記録を行う「苦情受付担当者」や責任主体である「苦情解決責任者」、そして苦情の解決に社会的な客観性を確保し、ご利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を推進する「民生委員や児童委員など外部の有識者が構成される「第三者委員」が設置されている。

かな雰囲気とは一転、和やかな雰囲気ですすめられ、他施設との年に一度の職員間交流に花を咲かせた。また「新入職員紹介」では12名の新人職員が登壇し、緊張の面持ちで一人ずつ自己紹介を行った。最後に、渡邊啓道理事より中締め挨拶。その後記念撮影を行い来年への成長を誓い合っ

場として、多宝会では年に2回「苦情解決第三者委員会」を開催している。今年も去る10月1日、令和元年度第一回苦情解決第三者委員会」が開催された。本会に提示された事例は6件。スタッフの対応に関する疑問や送迎に関する要望、連絡ミス等が報告された。第三者委員の皆様からは、「ご利用者に対し、全ての人と同じ対応ではなく、一人ひとりに寄り添った対応が必要である。ご利用者一人ひとりの要望や思いを全て把握することは難しいと思うが、その方への対応を思いは自然と対応できるはず。今後もご利用者に寄り添った対応をお願いしたい。また「主に苦情となるのは初期対応の遅れやスタッフ間のチームワークの乱れからくるものが多い。今回の苦情の中には、そのようなことが見られないのは、職員対応がきめ細やかであったことが分かる。引き続き適正かつ心ある施設運営をして欲しい。」等の貴重なアドバイスをいただいた。その他のメンバーからも活発な意見が交わされ充実した会議となった。

張の面持ちで一人ずつ自己紹介を行った。最後に、渡邊啓道理事より中締め挨拶。その後記念撮影を行い来年への成長を誓い合っ

張の面持ちで一人ずつ自己紹介を行った。最後に、渡邊啓道理事より中締め挨拶。その後記念撮影を行い来年への成長を誓い合っ

張の面持ちで一人ずつ自己紹介を行った。最後に、渡邊啓道理事より中締め挨拶。その後記念撮影を行い来年への成長を誓い合っ

張の面持ちで一人ずつ自己紹介を行った。最後に、渡邊啓道理事より中締め挨拶。その後記念撮影を行い来年への成長を誓い合っ

市内初「マッスルスーツ」を導入

ベンチャー企業との開発連携

限られた人員で効果的にケアを行う研究を日々続けているが、先進的なアイテムを活用した負担軽減も一つである。東京理科大学発ベンチャーで介護福祉機器などを手掛ける「株式会社イノフイス」が、本年3月に福島市と立地基本協定を締結して福島駅西口に研究開発拠点を設けた。

この情報を得て即座に加藤理事長が同社を訪問し、導入に向けた連携協議が始まった。6月には法人内でマッスルスーツの説明会を開催。マッスルスーツとは、人間の動作(特に腰部)を補助する着型ロボットスーツである。電気などの動力は一切使わず、ゴムチューブと圧縮空気による人工筋肉がメイン構造だ。そのため稼働時間には制限がなく、また水場や屋外でも使用でき、装着も簡単な優れ物である。実際に各施設長が装着し、その機能を体験した。装着当初は「慣れるまで大変」と苦慮する面も見られたが、理事長より「使い方は人それぞれ。合わない方も当然いる。しかし、研究段階の製品でもあり、良いか悪いかではなく、こうした先進アイテムを“触れる”負担を軽減するアイテムが、ある”ことが

大切である」と、先進的な取り組みをするにはリスクも取っていかねばならないとの訓示があった。半年間の試験や協議も終了した10月、宝寿木村屋にて「マッスルスーツ引渡式」が行われ、加藤貴之理事長、株式会社イノフイス技術開発部長中川誠也様、同福島研究所安齋明美様、宝寿木村屋の佐藤由紀施設長が同席し、1施設2台、計10台のマッスルスーツを導入するとともに、ケアワーカーのさらなる負担軽減を目指す



し、技術開発研究に伴う連携を行なっていくことを決めた。

多宝会の応援団

法人ならびに5つの施設は、多くのボランティアの皆様を支えられて、はじめて運営が成立していることを日々実感する。紙面掲載量に制限があるため代表の皆様のみ掲載とはなるが、創刊10周年を記念してその活動の一端をご紹介します。

美容と舞踊

出張美容室「さくらんぼ」の近藤京子様は、自身のこの趣味として嗜まれている「日本舞踊」をお披露目。普段の美容師のお姿とは一転、着物姿で華麗に踊られる近藤様にご利用者の目はくぎ付け。



琴の調べへ

年に数回ほど歌や演奏を披露される「うすゆき草」のお仲間の中で、琴がお好きな2人で結成された「な



かよしごと」の菅野恵美子様と小林たか子様。お2人の息のあった演奏に会場は終始和やかな雰囲気包まれている。

フルートの音色

慰問で来ていただいた若い若月美香様が主宰のフルート教室「ア・キュート」。その演奏発表会を開催。発表会独特の賑やかな雰囲気の中にも麗しさが漂う素晴らしい音色に、ご利用者は心を奪われている。



マンドリンアンサンブル

福島市社会福祉協議会ボランティアセンターにご登録の「福島マンドリンアンサンブル」様は、マンドリンの音色とギターの響きと共に多くの歌を披露。さらにはご利用者との合唱も企画して頂いた。



ソプラノの美声

福島市を代表するソプラノ歌手の紺野恭子様、ピアノの角田啓子様は、月の沙漠やオペラ等を披露。また今ホットな古閑裕而メロデーも披露され、その声の美しさと音色に魅了される感動のあまり涙を流されるご利用者もいた。



美しい緑の立役者

5年以上前から、毎年アリヴァーレ宝生園、ほのぼの宝生園の敷地内除草にご尽力くださっている「儘の上町会 みどりの会」の皆様。敷地面積が広い中、早朝からの丁寧な作業により隅々まで綺麗にして下さっている。



詩吟と歌謡と交通安全

警察OBの梅宮勇治様と

管家政利様による交通安全講話。お話のみならず手品や歌も披露して頂いた。詩吟や懐かしい歌謡曲に当時を思い出し、懐かしさに感動するご利用者も。



懐かしき音楽会

今年3月の音楽会で通算50回目を迎えた「むねたや」様。ご利用者が2手に分かれ「赤とんぼ」を輪唱。誕生日を迎えたご利用者には「ハッピーバースデー」の歌を贈られ、最後はみんな「幸せな手をたたこう」で盛り上がった。



音楽療法

まだまだ珍しい「音楽療法」を用いてご支援くださる日本音楽療法学会認定音

楽療法士の藤井文香様。法人に来訪して下さり、10年余り。現在も県外からご来園くださり、音楽を通してご利用者に寄り添って頂いている。



施設記事

いきいきももりん体操の実施

荒井婦人会体操クラブの依頼で「いきいきももりん体操」が西学習センターにおいて実施された。体操後「継続すること」が必要と、西部地域包括支援センターの半澤保健師から説明があり「今後とも地域の高齢者の方々が健康に過ごしていけるよう様々な取組を続けていきます」とのこと。



実務者研修受講生来館

介護労働安定センターで実務者研修を受講している皆様、授業の一環としてまちなか宝生園を訪れた。施設見学後、介護職員の益留裕大さんと藤原恒彦さんが、施設で働くきっかけややりがいについて、受講生に伝えた。



益留裕大さん



藤原恒彦さん

ご厚志御礼

- 川上 久子様
- 久保寺孝幸様
- 佐久間郁子様
- 佐藤 次男様

この度はご寄付を賜り有難うございました。心より感謝申し上げます。

多宝会のロゴマークは漢字の心の文字をデザインしました。人としての振る舞いは心の働きによることから、その在り方こそが大切であると考えています。黄は奉仕、青は信頼、赤は勇気を表しています。

施設の話題をいち早くお届けする

多宝会ホットライン

多宝会の基本理念は「日々・心・日々・信・日々・新」を掲げています。誠実な心と行動によって信頼が築かれ安心の日々をお過ごしいただけると考えています。スタッフ一同、明るく、優しく、朗らかに、一日一日を大切に、人と地域を元気にしたいと思っています。

土湯宝生園

土湯温泉町観光ツアー

「土湯温泉町観光ツアー」を開催しました。照南湖ビオパークで色鮮やかな睡蓮を鑑賞し、新名所の湯愛舞台を見学、湯楽座で昼食をとりました。湯愛舞台からは、国立公園内に立地する土湯温泉町が一望できます。今回のツアーで、地域の良さをこれまで以上に実感しました。



デイサービスのサマーバイキング

サマーバイキングを行いました。夏野菜のピザ、ブルコギ、つくね串等、夏らしい料理がたくさん並び、品数の多さに、皆様目をキラキラさせていました。どの料理もとても美味しく、いつも以上に召し上がっていました。秋のバイキングも楽しみだ、今からワクワクしていました。



ケアハウスの敬老の集い

敬老の集いの第一部では、卒寿、米寿になられた方の表彰を行い、第二部では、ご家族とともに松花堂弁当に舌鼓をうち、お祝いをしました。「むねたや」様には、ギターと歌声を披露していただきました。行事を通して、ご利用者同士の絆も深まりました。



デイサービスの敬老の集い

卒寿3名、傘寿2名、米寿5名、喜寿3名の方が表彰されました。今年は、中身がお赤飯の饅頭をみんなで作りました。赤と白の赤飯饅頭はお祝いにぴったりなお菓子でした。おやつ後は、一年間のご利用者を書いたスライドショーを上映しました。



こころ美のささやき

10年100号って一口に言うけど大変なことだね。これからどうよね。大それたも広報室はワンチームで頑張ります！2019流行語大賞をつかってみたわ。

アリヴァーレ・ほのぼの宝生園

ちまき作り

ちまき作りを行いました。作る前は「作り方忘れちゃったな～」と声がありましたが、いざ笹の葉を手にとると手際よく作っていました。完成したちまきは、きな粉をたっぷり付けておやつで頂きました。



宝生園コンサート

ソプラノ歌手紺野恭子様とピアニスト角田啓子様が来園されました。オペラの他、古関裕而さんの楽曲など、ご利用者の歌える曲も演奏していただきました。素敵なお歌声に皆さん感動していました。



夏のイベント

毎年恒例の夏のイベントを行いました。ソフトクリーム、杏仁豆腐等のスイーツが並び、今年はお焼きにも挑戦しました。ゲームコーナーでは、ヨーヨー釣り、ペットボトルボーリングなどで楽しみました。



敬老の集い

102歳のお祝いの方をはじめ、白寿1名、卒寿7名、米寿8名を含め、お祝いをしました。ご利用者の八島俊介様が、ご挨拶と俳句を披露いたしました。また、職員の佐々木学さんより、歌を披露していただいたりと、にぎやかな敬老の集いとなりました。



宝寿木村屋

調理レク

7月の調理レクオーダーはお好み焼きと焼きそばでした。ご利用者に野菜を切ってもらいホットプレートで調理。汗をかきながら食べましたが、大変美味しかったです。



盆踊り

土湯温泉町の盆踊りに参加しました。踊りの輪に入って踊る方、やぐらや踊りを見て楽しむ方、それぞれの楽しみ方で、笑顔で過ごしました。



まちなか宝生園

夏祭り

今年も夏祭りを開催しました。目の前で焼かれるたこ焼きやクレープ、デイサービス手作りのシロップをかけたかき氷など美味しくいただきました。ゲームコーナーではストラックアウトで大盛り上がり。締めくくりは、相馬音頭で盆踊りを楽しみました。



七夕飾り

今年は福島七夕飾りに、ご利用者が力を合わせて作った2台を出展しました。展示からまもなく、初日に暴風で壊れてしまいましたが、見事「福島市長賞」を受賞しました。来年も素晴らしい作品を期待しています。



敬老の集い

今年も9名が表彰されました。表彰された方には、ボランティアの後藤様とそのお友達の方に、ネイル・メイク・ヘアを綺麗にいただきました。余興では、「まほろばマジック研究会」の方々によるマジックと大道芸が披露されました。



デイサービスの敬老の集い

今年の敬老会では、2年ぶりに「劇団デイサービス」が復活し、「桃太郎劇」を行いました。職員全員による劇は、笑いあり、歌あり踊りありと大変盛り上がりしました。長寿表彰も桃太郎一行による表彰でした。



秋祭り

初めて秋祭りを開催しました。屋上で、炭火でサンマを焼き、芋煮汁などを堪能しました。その後、射的やボーリングを楽しみました。景品もあり、大変盛り上がりしました。



敬老の集い

101歳の方を含め、3名の方が表彰されました。ご家族代表挨拶では、職員への感謝の言葉をいただき感謝無量でした。会食の席では、栗入りのお赤飯やさつま芋の炊合せなど、秋を感じました。



各種ご相談は各施設までお気軽にどうぞ、見学等も随時お受けしております。

土湯宝生園	024-594-5900	西部地域包括支援センター	024-594-5800
アリヴァーレ宝生園	024-594-0061	土湯宝生園指定居宅介護支援事業所	024-594-5902
ほのぼの宝生園	024-594-0063	湯ったりデイサービス	024-594-5900
まちなか宝生園	024-521-1122	法人本部事務局	024-522-6611
宝寿木村屋	024-594-5122	URL	http://www.tahokai.jp